長崎新聞　2015年5月12日（火）

医師ら活用例発表

「あじさいネット」研究会

長崎

県内の医療関係者がインターネット上で患者の診療情報を共有する「あじさいネット」の研究会が9日、長崎市茂里町の県医師会館であり、医師らが現状や課題について意見交換した。

あじさいネットは、県内の病院や診療所、薬局など約240施設が患者の同意を得た上で、検査結果や治療内容を共有、閲覧するシステム。2004年に運用が始まり、患者の登録数は現在約4万4千人に上り、国内最大規模のIT医療ネットワークに成長した。

研究会はシステムを運営するNPO法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会（小尾重厚会長）が開き、県内外の医療関係者約300人が参加。県内で在宅医療や糖尿病、リウマチの治療に携わる医師や薬剤師がシステムの活用例を発表した。同様のネットワークを構築している岡山、島根、山形各県の医療関係者の報告などもあった。

小尾会長はあいさつで「これまでは（患者の）情報網を広げることに力を入れてきた。今年11年目を迎え、システムをいかに活用するかが課題だ。有意義な使い方を関係者で考えていきたい」と呼び掛けた。

（田下寛明）

あじさいネットの活用例などを報告した研究会＝長崎市、県医師会館